

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

ラガーマンの秘湯めぐり

柏市立柏第三中学校 第三学年 水田 謙壮

源泉かけ流しの温泉が惜しみなく注ぎ込まれている湯舟に入ると、大量の湯が溢れた。僕は体重が百キログラム以上あるので、溢れる湯量もヘビー級だ。溢れたお湯の分だけ疲れがとれたような気がした。ラグビーの試合後に立ち寄った温泉の露天風呂での光景である。この日は日帰りだったが、我が家の家族旅行はいつも秘湯めぐりだったから、スマートフォンで電波が入らなかったり、山道でシカやサル、クマなどの野生動物を見かけることもある。小学生の頃は、夜になると温泉宿の近くで虫捕りをした。これまで一番の大物はミヤマクワガタだ。いや、タムシの方がレアだったかもしれない。家族との思い出をふり返ると、必ず温泉にまつわることが頭に浮かぶ。それを支えている一部が税金だと知って、僕は入湯税に興味を持った。

入湯税について、総務省のホームページなどで調べてみたら、予想を裏切る事実が僕を待っていた。税といえば、僕は消費税を思い浮かべる。その消費税と入湯税は使い道が違うことにまず驚いた。消費税の主な使途は、年金・医療・介護・子育てなどの社会保障だ。しかし、入湯税は温泉の環境衛生施設や鉱泉源の保護管理施設の整備、また、消防施設・消防活動に必要な整備や観光の復興などのために使われているらしい。しかも、消費税よりも歴史が古いことも意外だった。

草津や箱根などの有名温泉地には、多くの観光客が訪れるため、様々な施設の整備が必要になる。つまり、入湯税は温泉関連施設を支えているのだ。こんなに大事な役割があったとは知らなかった。ちなみに、入湯税は地方税であるため、市町村ごとに金額が異なる。例えば、別府市では一泊二日あたり最大五百円だが、僕のお気に入りの高湯温泉がある福島市では同じ条件でも百五十円だ。

僕は温泉についてのことなら、同じ学校に通う誰よりも詳しい自信がある。これまでに数多くの温泉に入り、泉質を調べたり、匂いを楽しんだりしているからだ。やはり、温泉は清潔であってほしい。そのためには、定期的な衛生検査と、なにより清掃が大切だ。それらを支える財源ともなる入湯税は、金額は小さくても大きなものだと思う。もし、入湯税がなかったら、おいしい夕食をお腹いっぱい食べた後に露天風呂で父と語り合うことも飲泉することもできなかつたかもしれない。僕には、まだ行ったことのない温泉地が数多くある。世界自然遺産の知床国立公園内にある岩尾別温泉や、徳島県の秘境として有名な祖谷のかずら橋の近くにある祖谷温泉、単一源泉では温泉湧出量日本一の秋田県の玉川温泉などにも行ってみたい。僕がそれらの温泉へ行き、入湯税を払うことが貴重な温泉施設を未来に残すことに繋がるなら、積極的に払いたいとさえ思えてくる。ただし、入湯税の使われ方には「幅」があるので、そこは注意深く確認するようにしたい。